



広報たはら

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2015
平成27年

6.15

土に寄り添う花色
母の愛のように！

目次

「しみんの広場」 2

田原市広報サポーター

「La*花のたま」第2期生

今月の花「レイコのコレイいね」

地域の話題

市民活動を応援するページ

スクールレポート

学校生活の一コマを紹介

たはらシティニュース

連載コーナー

おしらせ

渥美三町の時代

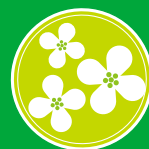
6

7

8

10

12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 田原市広報サポーター……………2ページ
- La*花のたま第2期生・今月の花……………3ページ
- 地域の話(田原南部校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

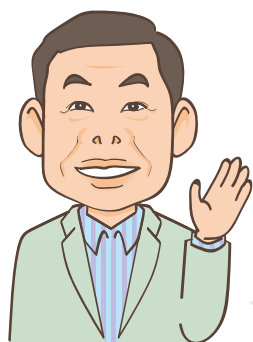
はじめまして!

平成27年度広報サポーターです。

田原市が募集した広報サポーターに、私たち5名が選ばれました。

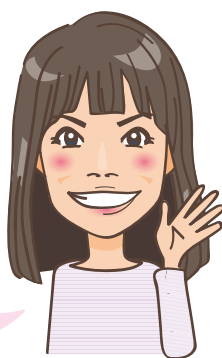
これから広報紙作成やケーブルテレビ市政番組、ブログやフェイスブックなどにかかわっていきますので、どうぞよろしくお願いします。身近な話題や、ためになる情報など、市民の皆さんにお届けしていきます。

皆さんの地域にも取材に伺うかもしれませんので、ご協力をお願いします。



太田俊一
(童浦校区)

昨年に引き続き、団塊の世代の広報サポーターとして、同世代の興味深い話題や田原市の旬の農産物、イベントなどをお伝えします。



大久保ゆり
(田原中部校区)

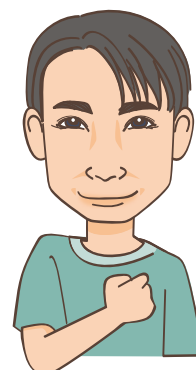
皆さんのちょっと知りたいことをお届けします。新しい発見につながるよう日々努力していきますので、見かけたら声をかけてくださいね。



近藤洋介
(田原東部校区)

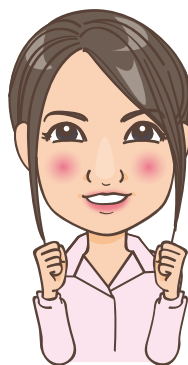
昨年に引き続き、今年も田原市の海の素晴らしさを中心にお伝えします。ブログやフェイスブック、広報の記事で紹介します。

田原市の子どもと遊べる公園やイベント、アウトドア情報など、ブログ、フェイスブックを中心に紹介します。



小田康太
(田原中部校区)

主にケーブルテレビのナビゲーターとして活動します。市民記者としても皆さんに田原市の魅力を発信していきます。皆さんからも田原市の魅力を教えていただけたら嬉しいです。



永田篤子
(童浦校区)

※田原市広報サポーターの部屋

- 田原市ホームページ
<http://www.city.tahara.aichi.jp/>
- ブログアドレス
<http://kohotahara.dosugoi.net/>
- ツイッターアドレス
<http://twitter.com/#!/kohoTahara>
- フェイスブックアドレス
<https://www.facebook.com/pages/愛知県田原市広報サポーター/1554557998100245>

市民発!

田原市ご当地アイドル

「La*花ノたみ」第2期生デビュー!!

5月23日(土)サンテパルクたはらで開催された「ベジコンフェスタ」のステージで、「La*花ノたみ」第2期生がお披露目されました。ベジコンフェスタには、審査員として参加しました。

「La*花ノたみ」は、田原市の観光などを広くPRするために平成25年10月に結成されたご当地アイドルグループで、第1期生が約1年半活動してきました。

今回、第1期生の3人が全員卒業し、新たに第2期生の5人で新生「La*花ノたみ」として活動をスタートします。今後は、市内外のイベントでのPR活動や、フェイスブックやツイッターなどによる情報発信を行っていきま

す。皆さん応援よろしく願います。
◎「La*花ノたみ」公式ホームページ
<http://www.tahara-hanatami.jp/>

▼商工観光課 ☎23局3522

La*花ノたみプロフィール

- ① ニックネーム ② 担当カラー
③ 田原市の好きなところ ④ 特技

- ① のんのん
② アジサイブルー
③ サーフィンができる海
④ 走ること

- ① あん
② ローズレッド
③ おいしい食べ物がたくさんある
④ 横笛、書道

- ① あい
② マムホワイト
③ 自然豊かで空気がおいしい
④ 似てないモノマネ

- ① みいちゃん
② カーネーションピンク
③ 蔵王山の夜景
④ 料理

- ① なみ(リーダー)
② 菜の花イエロー
③ ココナッツビーチ伊良湖
④ 柔軟、料理



今月の花

レイコのコレいいね 12

農政課 ☎23局3517

◎花の消費拡大をめざして



5月9日(土)、花の消費拡大を目的に名古屋の久屋大通公園で、JA愛知みなみの花きの部会がフラワーマルシェを行いました。花の産地から直送された色とりどりの切花をその場でブーケにしたり、産地だからこそできるお手頃価格で鉢物を販売したり、花の魅力をPRしました。また、JA愛知みなみ鉢物部会がアジサイ祭り(5月30日(土)、31日(日))のPRを兼ねて市長を表敬訪問しました。渡會会長が「情報発信をすることで豊富な品種があることを多くの人に知ってもらい、花に興味を持ってもらいたい」と述べ、まずは花を手にとってもらい、生産者自ら消費者に向けて花の魅力を伝えることに意欲を示しました。



6月の 渥美半島 花と鉢花

アルストロメリア
(花/出荷時期:10月~6月)

花ことば
エキジチック・援助・持続

県内で生産しているのは田原市のみで、約70品種ほど生産しています。

ハイビスカス
(鉢花/出荷時期:4月~6月)

花ことば
常に新しい美

南国をイメージさせる花で県内1位の生産量で、約48万鉢生産しています。



▲利用者からは大変好評です!



▲市民館からコミュニティメールで一斉に情報発信

地域の話題

田原南部校区

コミュニティメールが結ぶ安心と絆

校区内の連絡事項をより確実に周知しようと
携帯電話などのメールを使う「コミュニティメール」を始めた
田原南部コミュニティ協議会からお便りが届きました。

うまく情報を伝達するには

田原南部校区では、平成26年9月1日から田原南部校区内コミュニティメールの発信を開始しました。校区コミュニティ協議会が、校区民に対して行う情報伝達手段として、携帯電話などのメール機能を活用することにしました。

これまで、校区内行事の中止のお知らせや参集、訃報などの連絡は、回覧や電話連絡、防災行政無線などで行っていました。

しかし、留守で不在の家庭への連絡ができなかったり、風雨などで無線スピーカーが聞き取れなかったり、交通の安全面から道路上への通夜告別式案内看板設置ができなかったりと、うまく情報が伝わらないこ

とがありました。

そこで私たちは、メールを活用した情報発信に着目し、校区民から希望者を募り、連絡事項をメール会員登録された方へ情報発信することにしました。

メールで確実に情報を知る

現在、210人の方がメール会員登録しています。校区行事当日でも、天候不良による急な変更連絡や葬祭案内などの一斉連絡などに利用して



▲コミュニティメールの受信画面

います。

利用している皆さんからは、「忙しい中でメモを取らなくてもよい」「メールなので間違いなく確認できる」と好評を得ています。

活気溢れる田原南部校区

田原南部校区では、従来の居住者と新しい居住者（グリーンタウンへの転入者）が共生し、活気が溢れています。

住民の参加により活力がみなぎり、子どもから高齢者まで共生する地域づくりを目指している私たち。これからも、コミュニティメールのような新たな取り組みに挑戦するとともに、地域の絆がより一層深まるよう、地域一丸となって活動していきます。





市民活動を応援するページ



市民活動紹介

NPO整理収納 東三河ネットワーク

～整理収納をして素敵な日々を送りましょう～

東三河に住む整理収納アドバイザー（※）が結成した「NPO 整理収納 東三河ネットワーク」。

（※ NPO 法人ハウスキューピング協会の認定資格）

お家や職場を整理収納すると、その場所がスッキリするだけでなく、そこにいる人の気持ちもスッキリし、ゆったりとした時間が流れるようになります。モノが片づくとき気持ちや時間、見えないモノが豊かになるのです。

下記の教室では、お片づけの手順・コツを整理収納のプロがお伝えします。片づかないお家のどこを、どうすればいいのか、はっきりわかるようになります。また、引き出しの整理収納の実習を取り入れ、お家に帰ってすぐに取り掛かれるプログラムになっています。

整理収納をして素敵な日々を送りましょう。

「整理収納で幸せになる！」お片づけ教室 基本編

日時：7/8 水 13:00～15:00

場所：田原文化会館 201 会議室

講師：鈴木直美氏（整理収納アドバイザー 2 級認定講師、整理収納アドバイザー 1 級）

定員：24 名（先着順）

参加料：2,500 円

申し込み：電話にて

▶申し込み先：NPO 整理収納 東三河ネットワーク

☎ 22-4559 / ☎ 090-5109-6058（鈴木）、☎ 090-9914-6481（もののべ）



市民提案

市の事業を受託してみませんか？

「市民提案型委託制度」は、行政が実施すべき性質の市民サービスなどについて、効果的な事業内容を提案した団体と市が委託契約を結ぶものです。市民協働で事業を実施することにより、少ない経費で高い効果を得ることが期待されています。市民活動団体の皆さんの、自由で柔軟な発想での提案をお待ちしています。今回募集されるテーマや応募方法は以下のとおりです。



募集テーマ①市民活動団体交流会「しみんのひろば」開催事業

〔提案内容〕市全域を対象とした市民活動団体のPR、団体間交流の場となるイベントの企画・開催

〔事業費〕上限15万円

募集テーマ②男女共同参画啓発事業

〔提案内容〕男女共同参画に関する講演会の企画・開催や啓発パンフレットの企画・作成、男女共同参画の視点からの避難所開設・運営訓練 など

〔事業費〕上限20万円

●募集期間 6月17日水～7月17日金 午後5時 ※締切日必着

●提案内容 上記の募集テーマに即した事業で、平成28年2月29日金までに完了する事業

●対象団体 主に市内で公益活動を行う5人以上で構成された団体

●応募方法 市民協働課で配布する提案用紙に必要事項を記入して、直接または郵送で提出。提案用紙は市ホームページからもダウンロード可（<http://www.city.tahara.aichi.jp/>→トップページ右下「市民協働のまちづくり」）

応募団体による担当課への提案説明により審査

●応募・問い合わせ先 市民協働課 ☎23局3504 ☎23局0180 ✉kyoudou@city.tahara.aichi.jp

※平成28年度実施の「自由テーマ型委託事業」については、別途募集が行われます。

田原市民活動支援センター

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

☎ 22 局 1111（内線 812）※開設時間のみ

FAX 23 局 0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です！

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。





スクールレポート

SCHOOL REPORT 81

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校での「5年生による稲作」と「果樹園の整備と栽培」の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679

神戸小学校 「5年生による稲作」



人と人とのふれあいから、ふるさとを感じて

神戸小学校の5年生は、毎年5月上旬に田植えを行っています。初めて苗を手にした子は、「こんな草から本当にお米ができるの?」と疑問をもちながら、恐る恐る田んぼに入りましたが、慣れてくると夢中になって苗を植えました。

田植え後は、稲の成長観察を定期的に行い、そこで生じた疑問を解決するために、田んぼの世話人の方を招き、学習会も行いました。

9月に入り、稲穂の頭が垂れてくると、いよいよ稲刈りです。慣れない鎌を手に稲を刈り取り、束にして学校へ運びました。乾燥後に取り組んだ脱穀作業では、下に落ちたもみを拾い集め、わずかな米も大切にしようとする姿が見られました。自分たちが育てた米に対する愛着が感じられる場面でした。

12月には収穫したもち米を使ってもちつきを行い、つき上がったもちを全校児童に振る舞いました。

このような長期にわたる活動を支えてくれたのは、田んぼの世話人、PTA役員、ボランティアの保護者の方々でした。地域の人たちの温かい心にふれ、ふるさとを愛する心がますます育ったと感じています。



▲夢中になって田植えを行う子どもたち



▲9月には、稲の脱穀を行いました

衣笠小学校 「果樹園の整備と栽培」

創立30周年の記念に、土佐文旦などを植樹



▲土佐文旦の苗木を植える子どもたち

西にシデコブシが咲き乱れる滝頭。「恐竜の背」を超えて登れば絶景が望める藤尾山。北にはゲンジボタルが飛び交う庄司川。衣笠小学校は、緑あふれる自然豊かな学校です。

昨年度、創立30周年を機に、今まであった果樹園の整備を行いました。学校西側の高台にある果樹園には、スモモ4本、ウメ2本、サクランボ1本を植えました。

また、栄巖古墳南の竹林を開墾して、果樹園に生まれ変わらせました。ここに、4年生が全校児童を代表して、「2分の1成人式」で土佐文旦35本を植樹しました。今では、どの果樹も勢いよく新芽が芽吹いています。このほかにも、毎年4月には、運動場南側の竹林で、タケノコ掘りを楽しむことができます。

自然に学び、自然とともに成長する衣笠の子どもたち。今は小さな果樹ですが、子どもも教師も実のなる日を心待ちにして、大切に育てています。

5月10日(日)

ラベンダーで
地域の魅力向上！

ラベンダープロジェクトが福江中学校で始まりました。同校ボランティアクラブ「ドリー

ムの会」と地域住民が地域の活性化を図ろうと、ラベンダーの育成からオイル抽出までを行うこの取り組み。生徒らは、専門家に教わりながら、ラベンダーの苗を植えました。



▲文部科学省の、学校を核とした地域魅力化事業「学校・地域『創』プロジェクト」の一環として開始されました

5月16日(土)

地域防災の要は
地域住民の力

防災リーダー研修会が田原文化会館で開催され、各地区から約70名が参加しました。

地域の自主防災活動の中心となる防災リーダーの皆さんは、災害時にどのように行動するかを考える図上訓練などを行いました。今後も、研修などで技術を磨きます。



▲的確な指示の出し方について積極的に意見を出し合う防災リーダーの皆さん

5月24日(日)

地域の安全のため
実践力を磨く

山林火災訓練が衣笠山中腹付近の仁崎観光道路と大山トンネル入り口(伊川津側)で実施されました。訓練には田原市消防団の全10分団・約500名が参加。真剣な表情で

中継放水訓練などを行い、実践力を磨くとともに、各分団の連携を確認しました。



▲中継放水訓練を行う団員たち(衣笠山中腹付近)

野菜 de しあわせ

①



今回から、隔月で渥美半島産の農産物の魅力をベジエール渥美がご紹介します。

ベジエール渥美は、渥美半島の農産物の魅力を発信する応援隊として、平成26年4月に発足した団体です。会員はジュニア野菜ソムリエ以上の資格を持っています。

ベジエール渥美の活動

現在、一番力を入れているのは、小中学校や保育園などでの食育講座や、各種イベントへの食育コーナー出展です。

保育園での食育講座では、絵本の読み聞かせや、野菜クイズなどを行っています。ベジエール渥美の名誉会長キャベゾウとのふれあいは子



●読み聞かせ

どもたちに大人気です。

食育コーナーでは、大人1日分の野菜の目標摂取量350gをピッタリあてるゲームや、においあて、野菜カードの神経衰弱などを行っています。

食育活動においては、渥美半島の野菜の魅力やおいしさを伝え、身近な野菜・果物について、大人も子どもも楽しく学び、食や農業への関心を高めてもらえるよう心掛けています。

このほかに渥美半島産農産物の販売、PR活動やレシピ紹介なども行っています。より多くの方に渥美半島の農産物を知ってもらい、新鮮な農産物が身近にある幸せを感じてもらいたいです。

▼農政課

☎ 23局 3517 FAX 22局 3817



●畑での食育講座

キャベツ・からいんの渥美半島きらり☆ゆるさんぽ

6



渥美半島☆観光大使のキャベツとかいくんが、きらりっ！と光る田原市の観光資源をご紹介します。

今回は、いのりの磯道に建てられた磯丸の銅像をご紹介します。



★伊良湖の歌人糟谷磯丸

磯丸は伊良湖町の漁師の家に生まれ、文字を書くことができませんでしたが、旅人たちが口ずさむ歌に不思議な魅力を感じ、努力して文字を覚え、歌を書くようになりました。

生涯で数多くの歌を作り、その中でも人々の願いや困りごとなどを心を込めて歌にしたまじない歌が有名です。この歌を掛け軸にして床の間に掛けると不思議とその願いがかなったといわれています。

人々は、85歳で生涯を終えた磯丸を神様としてまつりました。

昨年11月に、生誕250年記念式典が行われ、5月3日に、伊良湖道

の駅クリスタルポルトの西側に銅像が建てられました。

★いのりの磯道

磯丸の銅像が建てられたすぐそばには伊良湖岬灯台へ続くいのりの磯道があり、そこには磯丸の歌碑が並んでいます。また、恋愛パワースポットにもなっており、「二人の恋が結ばれるように」との願いが込められた歌碑の前で願いをかけると恋がかなうといわれています。

ご紹介した糟谷磯丸のほかにも田原市には渡辺崋山など有名な偉人がいます。身近な歴史に一度触れてみてはいかがでしょうか。

◎キャベツとかいくんのホームページもよろしくカイ。

☎ <http://www.city.tahara.aichi.jp/kankotai-shi/>

▼商工観光課

☎ 23局 3522 FAX 22局 3817



●いのりの磯道

景観ってなあに？

vol.7

▶街づくり推進課 ☎23局3523

◎渥美半島の魅力ある景観を、ブログで発信！

～「渥美半島の美しい風景を発信し隊」の隊員を募集します～

田原市では、国道42号と国道259号を軸に、渥美半島の魅力を発見し、自然や観光、文化などの地域資源を生かして美しい道づくり・景観づくりを行う渥美半島菜の花浪漫街道の取り組みを推進しています。これらの取り組みと、渥美半島の美しい風景を中心とした魅力について、



ぜひ一緒に
美しい渥美半島を
発信しましょう！

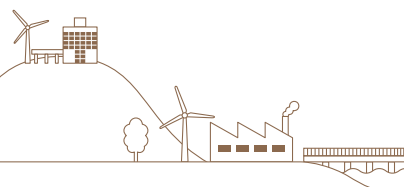
ブログを活用し全国へ発信する「渥美半島の美しい風景を発信し隊」を市内外から広く募集します。

「発信し隊」への応募について

- ▶対象＝渥美半島の美しい風景が好きで全国に発信したいと思う方（年齢制限・定員なし）
- ▶応募方法＝「発信し隊へ応募」と明記し、「氏名」「ハンドルネーム（あれば）」「性別」「生年月日」「住所」「電話番号」「職業」をメールにて送信
- ▶応募先＝下記メールアドレス（街づくり推進課）
✉machi@city.tahara.aichi.jp

※ご応募いただいた方には、記事投稿用メールアドレスとブログの運用基準を送付します。

- ▶謝礼＝なし
- ▶ブログへの投稿内容＝渥美半島の美しい風景や街並み、清掃活動、各種講座、イベント情報など
渥美半島菜の花浪漫街道ブログ
<http://nanohanaromankaido.dosugoi.net/>
- ▶お問い合わせ＝街づくり推進課



防災

ボランティアコー
ディネーター（防災V
C）をご存じですか？この言葉を
聞いたことがない方も多いと思
います。今回は、大規模災害が発生し
たときに活躍する防災VCにつ
いて紹介します。

◆防災VCとは？

大規模災害が発生した場合に
は、全国から多くのボランティア
が被災地に集まってきます。そ
んなときに、救援・救助活動が円滑
かつ効果的に行われるように、被
災地とボランティアとの間で調整
役となってもらう人のことです。

◆防災VCになるには？

毎年開催している養成講座を
受講してください。現在までに
290名が「田原市防災ボラン
ティアコーディネーター」として
認定されています。

◆どんな人が防災VCになるの？

市内在住でボランティアに興味

みんなで取り組む防災・減災

しろちゃん 防災知恵袋

15



防災ボランティアコーディネーターとは

のある方です。また、高校生にも
募集を行っています。

◆防災VCの有効期間は？

特にありませんが、時間がたつ
と知識も低下するため、市で毎年
開催している「フォローアップ講
座」の受講をお勧めします。

◆養成講座はいつ開催されるの？

今年度は左記のとおり開催しま
す。興味のある方は、社会福祉協
議会にお問い合わせください。

●対象

市内在住で、2日間とも受講で
きる方

●日時

8月1日（土）・2日（日）
いずれも午前10時～午後4時

●場所

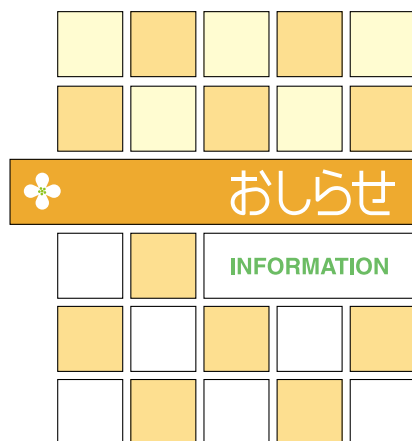
田原福祉センター
大会議室（3階）

田原市社会福祉協議会

☎23局0610 FAX 23局3670

✉info@tahara-shakyo.or.jp

▼防災対策課 ☎23局3548



募集

第18回愛知県介護支援専門員実務研修受講試験

▼対象Ⅱ次のいずれの要件も満たす方①保健・医療・福祉の各分野（以下、「保健分野など」）で合計5年以上（一部の対象者は10年以上）の実務経験がある方②保健分野などの業務に従事し、勤務地が愛知県にある方。または、かつて保健分野などの業務に従事し、現在、愛知県在住の方 ▼試験日Ⅱ10月11日（日）
▼試験案内および願書の配布期間／配布場所Ⅱ7月15日（水）まで／高齢福祉課、赤羽根市民センター、

渥美支所市民生活課 ▼願書の受付期間Ⅱ6月16日（火）～7月15日（水）
▼愛知県社会福祉協議会福祉人材センター
☎（052）212局5530

吉胡貝塚資料館特別体験講座 土器づくりと野焼き

▼対象Ⅱどなたでも（小学校3年生以下は保護者同伴／両日参加可能な方を優先） ▼日時Ⅱ【制作】7月5日（日）午前9時30分～正午【野焼き】7月26日（日）午後1時30分～4時（雨天中止） ▼場所Ⅱ吉胡貝塚資料館 ▼内容Ⅱ粘土をこねて縄文土器をつくります。 ▼定員Ⅱ20名（先着順） ▼参加費Ⅱ300円 ▼その他Ⅱ電話またはFAX・Eメールにて（FAX・Eメールの場合は、講座名・住所・氏名・電話番号を明記）

▼吉胡貝塚資料館

☎22局8060 FAX22局8070

✉yoshigo@city.tahara.aichi.jp

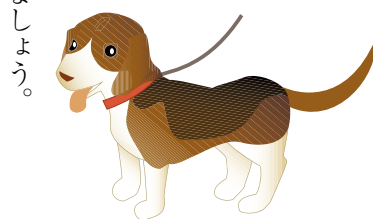


生活

ペットは正しく飼いまじよう

◆犬の放し飼いはやめよう
放し飼いの犬

が、子どもを追いかけてケガをさせたり、犬自身が交通事故に遭ったりすることがあります。



きちんと鎖などをつないで飼いまじよう。

◆猫は室内飼育にしよう

室内飼育をすることにより、交通事故、感染症や近所迷惑の予防となり、猫にとつての危険な要素を減らすことができます。

◆フンの後始末をしっかりとしよう

散歩中の犬のフンや飼育している猫のフンは、放置せずに必ず処理しましょう。処理後のビニールの袋の投棄も絶対にやめましょう。

◆ペットは終生飼育をしましょう

家族の一員として、ペットの生涯飼育は飼い主の責任です。ペットを

捨てる、動物の愛護および管理に関する法律により100万円以下の罰金に処せられます。飼いつけることが無理なら、新しい飼い主を探してください。

▼環境政策課

☎23局3541 FAX23局0180

教員免許状をお持ちの方は 教員免許の更新が必要です

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、現在、教員免許更新制が実施されています。今後、教壇に立つ見込みのある方は、生年月日に応じて修了確認が必要です。

免許の期限は、文部科学省ホームページで確認することができます。教員免許更新講習が必要な方は、申し込みや確認申請の手順などについて愛知県教育委員会ホームページでご確認ください。

■文部科学省ホームページ

☎http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/003/index.htm

■愛知県教育委員会ホームページ

☎http://www.pref.aichi.jp/000023795.html

▼愛知県教育委員会教職員課教員免許グループ

☎（052）954局6772

夏の交通安全県民運動
7月11日(土)～20日(祝)

●重点実施項目

子どもと高齢者を交通事故から守ろう

全ての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう

●飲酒運転を根絶しよう

▼市民協働課

☎ 23局 3504 FAX 23局 0180

指定給水装置工事事業者・排水設備指定工事店の新規追加

給水工事は、田原市指定給水装置工事事業者へ、公共下水道などに接続する場合は、田原市排水設備指定工事店へ必ずお申し込みください。

◆新規追加

【水道】玉木住宅設備(豊橋市馬見塚町)

☎ (0532) 32局 4035

【下水道】(株)ナガシマ(豊川市美園)

☎ (0533) 78局 2311

【水道・下水道】WATERLINE(豊橋市三木町)

☎ (0532) 35局 9396

▼水道課

☎ 23局 3532 FAX 22局 3184

▼下水道課

☎ 23局 3525 FAX 22局 3184

☎ 23局 3525 FAX 22局 3184

たはらエコフェスタ同時開催 第3回 きらり☆宝市

みなさんのご家庭に“まだ使えるけど使わないもの”眠っていませんか？
きらり☆宝市は、そういった不用品をみなさんから譲っていただき、希望する人に無料で提供するリユースイベントです。

リユースとは、不用品をそのまま再利用することで、再び資源に戻すリサイクルよりもエネルギーや費用がかかりません。

リサイクルよりちょっとエコなリユースが今注目されています。

7月26日(日)

正午～午後3時

(品物受付:午前10時～12時)

田原文化会館 多目的ホール

■取り扱うもの ※田原市のご家庭から出たもので、自分で搬入可能なものが対象

衣類	おもちゃ	ホビー用品
洗濯済でまだ着られるもの 	ぬいぐるみ、知育玩具、木製玩具 	アウトドア・スポーツ用品 
生活雑貨	育児用品	家具
未使用の贈答品・日用品、新品同様の小物雑貨・かばん・帽子など 	マタニティ用品、ベビー用品 	カラーボックス程度の小物家具、衣装ケースなど 

※取り扱いできないもの 食料品、化粧品類、学生服、危険物(刃物・薬品など)、家電品、大型家具(1人で持ち運びができないもの)、汚れや破損が激しいもの

■提供方法

提供する品数を、種類ごとに数えてお持ちください。または、市ホームページからチラシをダウンロードし、品物受付票に品数をご記入の上、当日品物と一緒に提出してください。

■事前受付

当日の持ち込みが困難な方は、7月13日(月)から事前持ち込みを受け付けます。平日(午前8時30分～午後5時15分)に、廃棄物対策課(市役所南庁舎2階)へお持ちください。

■その他

- ・取り扱いできないものの持ち込みは、受け取りをお断りさせていただきます。
- ・提供した品物が残っても持ち帰りの必要はありません。
- ・提供数に制限はありませんが、持ち帰る数は1人につき3点程度とします。
- ・詳しくは、チラシをご覧ください。

▶廃棄物対策課

☎ 23局 3538 FAX 23局 0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>



▲チラシQRコード

◆リユース自転車抽選会同時開催!

抽選券配布 ●午前10時～午後0時45分

抽選会 ●午後0時45分～

台数 ●大人用4台、子ども用2台(予定)

- ・抽選券は、田原市在住の18歳以上(高校生は不可)の方1人につき1枚。
※きらり☆宝市へ品物を提供いただいた方には、抽選券を3枚配布。
- ・自転車の当選は、1人につき1台。
- ・抽選会に不参加の場合は、当選無効。

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36局6503

表浜と田原湾の漁業

◆表浜の漁業

地引網漁とチリメン網漁

昭和30年代の表浜では、地引網漁とチリメン（シラス）網漁が盛んに行われていました。昭和27年の記録には、久美原から越戸までに36統の地引網がありました。

地引網にはほうべからいゝみ（魚群）を見つけて網を入れる前網（おかあみ）と沖合2〜3キロメートルほどから網を入れる沖網がありました。昭和30年代、主に行われていたのは沖網。

●地引網（赤羽根海岸／昭和30年代）



網入れ後、約8馬力の焼き玉エンジンを搭載した4トンほどのチリメン網用の木造船2隻か4隻で岸近くまで網を引いてきます。その後、ろくろを使ったり、人の力や牛を使ったりし、沿岸流に合わせて半日ほどかけて網を揚げました。時には大きな袋にサバやイワシがいっぱいに入り、重くて引き揚げられないこともあります。そんなときは、波が寄せるのに合わせて袋を転がして揚げました。左の写真では、どの漁師も全身赤銅色でたくましく、麦わら帽子や鉢巻きをし、ふんどししかパンツ姿で網を引いています。沖の船

は2隻で組になってチリメン網漁をしています。

イワシは煮干にしたり、生のまま砂浜に干して干鰯^{ほしか}にしたり、肥料にしたりしました。

◆田原湾の漁業

ノリとアサリの大産地

昭和41年に漁業権を放棄するまで、田原湾ではノリ養殖やアサリ漁が盛んに行われていました。

当時のノリ養殖は、海に刺した竹に長さ18メートル幅1.4メートルほどの網を張り、ノリが育つのを待ちました。左の写真のように、一面にノリ網が張られていました。ノリは養殖場所によって付き方や品質に差



●ノリの収穫（浦の大洲崎／昭和40年）

がでるため、平等になるように、場所割りをし、くじで決めていました。浅い所では長靴でも仕事ができましたが、場所や潮時によっては、鉄下駄を履き胴長をつけ、冬の海に胸まで浸かってノリを摘むもありました。摘んだノリは手回しのチョッパーで細かく切り、簀の上に薄く流した後、簀を木製の枠に刺して天日干しにしました。一日に1000枚から1500枚ほどの生産量で、アサリのむき身とともに大切な現金収入源でした。

昭和42年に工業用地の埋立てが始まると、ノリ養殖もアサリ漁も急速に姿を消しました。

（執筆委員・伊藤博文）

今月の「表紙」

▼アジサイの花言葉は、移り気などマイナスイメージの言葉が有名ですが、辛抱強い愛、団結といった言葉もあります。小さな花が寄り添って一つの花を作り、土の色によって花色を変えるアジサイ。親が子どもを想い寄り添う姿を連想させました。（〇）

【表紙の写真】滝頭公園のアジサイ